

文化財保存科学研究部会 年次報告（2018）

1. イタリア事業（イタリア レクチャー・デモンストレーション・ワークショップ）

2018（平成30）年5月15日にローマで、久留米大学文化財保存科学研究部会主催の八女手漉き和紙・久留米紬の実演と解説を行なった。同時に八女伝統工芸館が制作した英語パネルによる展示・紹介も行い、同年11月に福岡で開催される「伝統的工芸品月間国民会議全国大会」の宣伝を行なった。その後、16～18日にフィレンツェで開催される文化財保存国際学会（Heri-Tech）に参加し、ブースでの展示と小講義室での解説を行なった。

団員リスト：団員名と役割

《大学教員》

狩野啓子（団長，プロデューサー，講演者），神本秀爾（会場設営責任者，通訳）

大場はるか（会場設営補助，通訳），矢野英子（司会，通訳）

《伝統工芸実演者》

溝田俊和（八女手漉き和紙），松枝哲哉（久留米紬），松枝小夜子（久留米紬）



ローマ日本文化会館 HP 用ポスター
（ローマ日本文化会館制作）



Heri-Tech ブースでの訪問客対応



久留米紬の解説



八女手漉き和紙実演

財政面の支援

国際交流基金助成に採択され、それと同時に、支援者からの寄付、関係自治体（八女市・久留米市・うきは市）と久留米大学の支援協力があった。さらに、ローマ日本文化会館と秋山信茂氏のご協力によりローマで八女和紙紙漉きの実演が可能となり、八女和紙、久留米紙それぞれの制作者が現地で実演することができた。また、博物館コーディネーターのイヴァーノ・フランカヴィラ氏には、イタリア事業全体の企画や展示ブースデザインに、通訳の鶴巻美砂子氏には、イタリア語通訳ならびに DVD 字幕作成にご協力を頂いた。部会を代表して、深く感謝申し上げます。

報告会

第1回報告会（2018年6月2日）久留米大学御井学舎学生会館ミーティングルーム3

第2回報告会（2018年7月7日）八女伝統工芸館

第3回報告会（2018年12月19日）久留米大学御井本館8階スカイラウンジA

2. 公開講座

筑後地方に産する八女和紙，久留米飛白，藍染技術のアピールとその応用成果を紹介

演題	講師	開催日	会場
日本の伝統工芸も継承と活用	九州国立博物館 元館長 三輪 嘉六	9月25日（火）	福岡サテライト
筑後の伝統工芸のさまざま	久留米大学文学部 准教授 大庭 卓也	10月2日（火）	
「筑後工芸品月間」福岡大会 参加に向けて—八女提灯	久留米大学文学部 講師 矢毛 達之	10月9日（火）	
伝統工芸と柔軟性—久留米紙を テーマにした楽曲・映像作成の記録	久留米大学文学部 講師 神本 秀爾	10月16日（火）	
ドイツの伝統工芸を見習う —筑後の伝統工芸継承のために	久留米大学文学部 准教授 大場 はるか	10月23日（火）	

3. Web サイト構築

URL : <http://kurumebunkazai.jp/>

4. KOUGEI EXPO（2018年11月2日—4日）

マリンメッセ福岡（福岡市）で開催された伝統的工芸品の全国大会「KOUGEI EXPO」に、本学学生がデザイン制作に関わった八女提灯を展示。



（文責：原口雅浩）